



県北部豪雨災害を乗り越え
町民に潤いと活力を与えた

高校生の ボランティア 活動

鹿児島県立薩摩中央高等学校

県立薩摩中央高等学校は、県教育委員会の「かごしま活力ある高校づくり計画」に基づき、宮之城高校と宮之城農業高校が再編整備され、平成17年4月1日に開校した新しい高等学校です。開校以来、さつま町や町民の方々の多大な支援を受けながら地域と共に発展する学校づくりに努めております。

地域と共に発展する学校づくりの一環で、ボランティア活動に積極的に取り組む体制づくりとして、職員の校務分掌にボランティア係をおき、生徒会・農業クラブ・Sクラブ・ボランティア同好会などで多様な活動を展開しています。



繁華街のプランター

■ 繁華街に花の息吹

さつま町は、平成18年7月の県北部豪雨災害で、大きな被害を受けました。

生徒は、ボランティアとして復興作業に参加し、災害の恐ろしさを体感すると共に、復興に携わる人々との交流をとおしてボランティア活動の大切さを理解し、活動への意欲が高まっています。

生物生産科では、昨年6月に被災した虎居地区の復興に少しでもお役に立つことができると、生徒たちが授業で育てたサルビアやマリーゴールド、ナデシコなど色とりどりの花を植えたプランター200鉢を贈り喜ばれています。

公民館や町民の人たちから「商店街を中心に町に元気が戻りつつあり、高校生の活動が、人々の心に潤いを取り戻し元気になります。」と多くの励ましのことが寄せられています。

本年度は、虎居地区だけでなく屋地地区の商店街にも活動の輪を広げています。



花の贈呈

■ 交通安全ボランティア

生徒会と農業クラブは、春と秋の交通安全キャンペーンに参加し、花苗300鉢にチラシ・しおりを添えて、合同庁舎前の国道267号で配布し、交通安全を呼びかける活動をしています。

■ 募金活動・収集ボランティア

「国際ソロプチミストさつま」の認定団体・Sクラブは福祉科の生徒を中心に50名が活動しています。活動として、アジア・太平洋地域の復興支援のために、さつまフェスタや本校文化祭での募金活動、生徒が利用するバス停などの清掃活動を定期的に行っています。

また、使用済み切手・書き損じ葉書の収集活動など学校ぐるみで取り組んでいます。

■ 福祉施設等でのボランティア

当校では、保育園での保育体験や病院での看護体験、福祉施設でのボランティア体験など多岐にわたる活動をしています。



交通安全ボランティア

このようなボランティア活動体験学習が生徒の学習意欲を喚起し、昨年、保育体験に参加した2名の生徒が、町民大会でボランティア体験について発表し、町民に感銘を与えました。

今後も、社会福祉協議会や福祉施設の協力を得ながら、社会福祉に関する学習や福祉機器による体験学習の充実に努め、地域と一体化した教育活動が、継続的に展開されることと思います。

活動が認められ社団法人「小さな親切」運動本部から実行章が贈られました。